

掛川特別支援学校

障がいがあっても安心して暮らせるまちへ



今年2月、市内の高等学校4校および特別支援学校と市は、教育環境充実やまちづくりに協力して取り組む協定を結びました。

そこで、今月号からは高校生が描く掛川をテーマに、各校の生徒が掛川の魅力や将来像などを紹介します。1校目は掛川特別支援学校。障がいのある方が安心して暮らせるまちについて、生徒や保護者の思いを紹介します。

☎観光・シティプロモーション課 (☎21-1121)

今年も5人の生徒が職場体験

掛川特別支援学校は、希望の丘に平成27年4月開校しました。障がいのある児童生徒が「幼稚園、小中学校、高等学校に準じた教育を受けること」「学習上・生活上の困難を克服し自立を図られること」を目的に、地域や各関係機関との連携を大切に運営しています。

高等部では、卒業後の社会生活を体験し、仕事への理解を深めるため、市内外の企業と協働して3年間で計5回の職場実習を行っています。今年度は、1学期に5人の生徒が5社で企業実習を経験しました。

工夫してやり遂げた3週間の実習

市内住宅メーカーの工場で実習を行ったのは藤澤祐輝さん。工場敷地内の草取りや倉庫掃除などを行いました。「暑い中で外の作業が大変だったけど、少しずつきれいになっていくのが楽しかった。自分に合った仕事だった」と振り返ります。自転車で通勤するため、「自宅から近い職場でよかった」と話します。

市内病院のリハビリ科で実習を行った本間天悠さんは、「さまざまな作業を手伝う中で、高齢の方とコミュニケーションを取る機会が多

かった」と話します。慣れない敬語や話題の違いに戸惑いながらも、コミュニケーションをより深められるように自宅で話題集めを行うなどして3週間の実習をやり遂げました。

市内スーパーで実習を行った落合修規さんは、袋詰めやパック詰め、野菜コーナーでの品出しなどを行いました。「たくさんの作業があつて、楽しかった。職場のみなさんも優しく指導してくれたので困ったことはなかった」と目を輝かせながら話して、ぜひこの職場で働きたいと思ったそうです。

さまざまな職場で障がいへ理解を

3人の話に共通していたのは、住み慣れたまちで、障がいの特性に合った仕事に就いて暮らしていきたいという思いでした。

高等部の山下光司教諭は「障がいのある方が安心して暮らせるまちは、学校の子どもたちやその保護者の共通の願いです。そのためには、障がいのある方が継続して働く場所があり、生活面でも自立することが重要。職場実習や雇用をとおして、さまざまな職場で障がいのある方への理解が広がっていくことが、そうしたまちづくりにつながっていくのではないでしようか」と話します。

7月22日の放課後、それぞれの実習の内容や感想、仕事への思いなどについて教えてくださいました。



藤澤祐輝さん



本間天悠さん



落合修規さん